一般社団法人日本消化器癌発生学会
News Letter
http://www.j-sgc.org/
2020 No.1

目　次

COVID-19パンデミック時代における日本消化器癌発生学会…… 1
第31回日本消化器癌発生学会総会について …… 2
演題登録一覧…… 2
第30回日本消化器癌発生学会を終えて …… 5
一般社団法人日本消化器癌発生学会　学会賞に関する規程…… 6
日本消化器癌発生学会　大原　毅賞・田原榮一賞・研究奨励賞　歴代受賞者一覧…… 6
日本消化器癌発生学会特別研究推進 理事長直轄プロジェクト
「発癌・進展におけるゲノム・エピゲノムの最新のトピックス」のご報告 ……11
令和元年度一般社団法人日本消化器癌発生学会理事会議事録……12
第32回日本消化器癌発生学会総会・第10回国際消化器癌発生会議開催日程について ……15
編集後記……16

COVID-19パンデミック時代における日本消化器癌発生学会

一般社団法人日本消化器癌発生学会　理事長、徳島大学消化器・移植外科　**島田 光生**

本学会は、「消化器癌の発生と進展の解明」を目的として発足して以来、昨年30周年を迎えました。これまでの学会の発展はひとえに会員の皆さまのご支援ご理解の賜物と心よりお礼申し上げます。

さて今年は年初からCOVID-19の感染拡大により全世界的に重大な影響が出ています。いまだ収束する気配もなく治療薬やワクチンの開発が無ければ完全に収束することは難しいと言われています。

学術集会に関して、今年度に入り中止・延期、あるいは完全オンライン化やハイブリッド方式などWebによる開催形式となりました。大平 雅一会長の第31回日本消化器癌発生学会総会も会期を1日に短縮し現地開催を中止し、ライブ配信とオンデマンド配信のWeb開催となりました。元より本学会は、臨床系(内科、外科)、基礎(病理、生化学)が、がんの発生と進展に関して口角泡を飛ばすような自由闊達な、そして時にマニアックな議論が売りでした。今まさにこの良き“場”の提供という伝統が代わろうとしているわけです。新たな形でアップグレードしながら伝統的な良き議論の醸成の場を作ることが求められています。がん研究・教育に関して、感染拡大に伴う大学や研究施設の事業継続計画(BCP)レベル上昇に伴い施設内立ち入りの制限や動物実験施設の使用制限などが行われており、研究の遂行に大きな影響が出ています。パンデミックにおけるがん研究の遂行・発展のための革新的な対策も急務であります。学会の情報発信に関して、がん関連3学会(日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会)、またASCOもASCO Coronavirus Resources、ESMOはCOVID-19 and Cancerとして会員・医療従事者向けに情報発信しています。本学会もHPにこれらのリンクを張り、会員の皆様がHPからもリアルタイムに世界のCOVID-19状況に接することが出来るようにしました。

本学会の重要ミッション(①若手研究者の更なる発掘・育成と支援、②学会のさらなる財政の健全化、③学会の英語化とグローバル化、④女性研究者の育成と支援)の達成度に関して、今年の研究奨励賞は15題の応募の中から10題と過去最高の演題数を採択し、若手研究者のエンカレッジを行いました。また昨年には野村幸世先生が第33回(2022年)の会長となることが決まり女性研究者の育成と支援にも大きな弾みとなるものと考えています。一方、

財政の健全化に関しては未だ道半ばであり是非とも会員の皆様のご協力をいただきたいと切に願っております。

ウイズコロナ時代には、Avoid the 3 Cs（Crowded place, Close-contact settings, Confined and enclosed spaces）によるNew normal（新常態あるいは新しい日常）、すなわち、以前の状態に戻ることなくICTやAIを更に活用した全く異なるライフスタイルが社会に求められています。そして先の見えない激動の時代には、専門を追求する時代から幅広い知見が求められる“教養”が重要になると言われ、まさにこの概念は、がんの発生と進展を狭い視野でみるのではなく、横の線で俯瞰的に見ること（マクロの視点）によって物事の真実を明らかにしようとする本学会の理念と合致しています。

皆様とface-to-faceで思い切り語り、議論し懇親を深めることが出来る日が一日も早く来ることを祈念しております。そしてCOVID-19のパンデミックと共存時代における新しい消化器癌発生学会のあり方を皆さんと一緒にスピード感を持って考え実践していきたいと考えています。今後ともご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

第31回日本消化器癌発生学会総会について

第31回日本消化器癌発生学会総会（The 31th Annual Meeting of Japanese Asskciation for Cancer Detection and Diagnosis）は、大平雅一大会長のもと下記の要項で開催されます。

テーマ：癌組織の細胞社会を解き明かす
大会長：大平雅一（大阪市立大学　消化器外科学・乳腺内分泌外科学　教授）
日　時：2020年11月27日（金）
開催形式：Web開催のみ
※Web配信およびライブでの質疑応答、オンデマンド配信で行います。
参加費：5,000円（通常は15,000円）

《ライブ配信：2020年11月27日（金）》
特別講演、大原毅賞受賞講演、田原榮一賞講演、会長講演、
共催セミナー1～8、シンポジウム、ワークショップ
《オンデマンド配信：2020年11月27日（金）～12月31日（木）》
特別講演、大原毅賞受賞講演、田原榮一賞講演、会長講演、シンポジウム、
ワークショップ、理事長直轄プロジェクト、研究奨励賞受賞講演、一般演題
《優秀演題賞について》
各セッション発表の中から優秀演題賞を選考します。学会発表後に選考し、受賞者を学会ホームページに掲載します。選考者数（16名の予定）：主題8名（各セッション2名）、一般演題8名（各セッション1名）。受賞者に賞状と副賞をお送りします。

演題登録一覧

シンポジウム①	櫛山周平	大阪市立大学大学院癌分子病態制御学	癌関連線維芽細胞由来のスキルス胃癌細胞に対する新規増殖促進因子の検討
	山田康太	神戸大学医学部食道胃腸外科	大腸癌腹膜播種の病勢に骨髄由来免疫抑制細胞が及ぼす影響とその治療応用
	小林照貴	岡山大学大学院医歯薬総合研究科 消化器外科学	癌細胞及び癌関連線維芽細胞（CAFs）を標的とした光免疫療法
	中村友祐	金沢大学大学院　胃腸外科学	免疫正常マウスの胃癌腹膜播種線維化モデルにおける癌微小環境の解析と、薬剤投与による癌制御の検討
	安川佳美	国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野	スキルス胃がんにおける線維芽細胞はがん浸潤の強い亢進作用を伴った特徴的な形質を示す
	齊藤　亮	山梨大学医学部外科学講座第1教室	胃癌進展における血小板の役割
	青木竜也	金沢大学附属病院　胃腸外科	胃癌原発病変と転移巣におけるCD36発現と予後解析
	岡部篤史	千葉大・院医・分子腫瘍学	胃癌において癌ウイルス感染が誘導するヘテロクロマチンリプログラミングとクロマチン構造異常
	羽村凌雅	東京慈恵会医科大学　外科学講座 消化器外科	ライソゾーム酵素による膵臓癌におけるオートファジー調整機構の解明
	旭　火華	北海道大学　消化器外科Ⅰ	腫瘍外縁、内縁、内部の各領域におけるCD8+T細胞の分布に注目した肝内胆管癌の臨床病理学的検討

シンポジウム②	美馬勝人	浜松医科大学　耳鼻咽喉科頭頸部外科	HPV関連頭頸部扁平上皮癌のクロマチン3次元構造解析
	山田岳史	日本医科大学　消化器外科	Liquid biopsyを用いた大腸癌Precision Surgery
	石黒友唯	労働者安全機構　釧路労災病院　外科	胃癌患者における循環腫瘍細胞（CTC）の臨床的意義－特に上皮間葉転換と周術期動態に注目して－
	辻尾　元	大阪市立大学大学院　消化器外科学	クラスター分析を用いた胃癌腫瘍内発現蛋白および遺伝子の不均一性の検討
	伊藤心二	九州大学大学院　消化器・総合外科	原発性肝癌における腫瘍免疫と癌代謝との関係
	岡留一雄	熊本大学　消化器外科学	食道癌におけるPD-L1/L2発現は原発腫瘍と再発病変で一致するか？
	山下　智	東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学、消化管外科学	胃神経内分泌細胞癌においてはHER2よりもPD-1/PD-L1経路が有望な治療標的である
	阿河河杏介	神戸大学大学院医学研究科 食道胃腸外科学分野	放射線治療は、腫瘍内CD8+ T細胞の増加とサイトカイン産生を増強し、抗腫瘍効果に寄与する。
	志智俊介	北海道大学医学部医学研究院 消化器外科学教室Ⅰ	肝がんにおけるDiacylglycerol Kinase αを介した抗腫瘍免疫の制御
	神田光郎	名古屋大学　消化器外科学	進行再発胃癌組織中に高発現する受容体NPTXRを標的とした抗体医薬の開発
ワークショップ①	山本百合恵	大阪市立大学大学院　医学研究科 癌分子病態制御学	胃癌におけるCXCL1/CXCR2シグナルの意義
	柳垣　充	東京慈恵会医科大学　外科学講座 消化器外科	NF-kB阻害剤を用いた膵癌肝転移抑制における変動miRNAの解析
	裏川直樹	神戸大学大学院医学研究科 外科学講座食道胃腸外科学分野	当院における胃・食道胃接合部腺癌に対する術前化学療法の治療成績の検討
	龍崎貴寛	千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学	胃癌患者由来癌関連線維芽細胞は癌-間質相互作用を介して胃癌細胞株の浸潤能を高める
	奥野倫久	住友病院　外科	スキルス胃癌細胞由来EVsは腹膜中皮細胞に間葉系形質転換を引き起こす
	臼井源紀	東京大学大学院医学系研究科 病因病理学専攻 人体病理学教室	4,260名の無症候検診コホートの解析による胃発癌リスク因子の探索と胃粘膜に蓄積したDNAメチル化の解析
	谷岡洋亮	川崎医科大学　臨床腫瘍学	POLE変異大腸癌の臨床病理学的特徴と遺伝子変化
	小澤直也	群馬大学大学院　総合外科学	Colitic cancerにおけるDNA2重鎖切断修復応答に伴うPD-L1発現の検討
	松橋延壽	岐阜大学医学部附属病院　腫瘍外科	大腸癌におけるGlycocalyxを構成しているSyndecan-1の役割
	野村幸世	東京大学大学院医学系研究科消化管外科	消化器癌早期診断血清バイオマーカーTFF3の上昇機序の解明
ワークショップ②	西村貞德	大阪市立大学大学院　消化器外科	スキルス胃癌の新規予後診断マーカーLCN2の同定と臨床的有用性
	吉松和彦	埼玉県済生会栗橋病院　外科	低分化胞巣数の多いStage Ⅲ大腸癌では補助化学療法にFOLFOX/CAPOXを施行しても予後不良である
	大見　関	名古屋市立大学　消化器外科学	膵癌における血管新生抑制を介したエスシンの抗腫瘍効果の検討
	多加喜　航	京都府立医科大学　消化器外科学教室	胃癌における治療標的としてのHMGB1の役割
	山内沙耶	神戸大学大学院　食道胃腸外科	直腸癌に対するTa-TME併用直腸切断術の手術手技と手術成績
	北沢将人	信州大学医学部附属病院　消化器・移植・小児外科学分野	同時性遠隔転移巣切除大腸癌患者の臨床病理学的予後因子の検討
	宗田　真	群馬大学大学院　総合外科学講座	切除不能進行食道癌に対する集学的治療の現状と手術介入の可能性
	中村直彦	金沢医科大学	Stage Ⅳ胃癌におけるConversion Surgery達成を予測する因子の検討
	菊池寛利	浜松医科大学医学部外科学第二講座	Stage Ⅳ胃癌に対するconversion surgeryの再検討
	杉本敦史	大阪市立大学大学院消化器外科学	腹膜中皮細胞のTks5発現と胃癌予後との関連性の検討
理事長直轄プロジェクト	張　春東	国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野	食道胃接合部がんの起源細胞を予測するDNAメチル化マーカーの開発
	八木泰佑	静岡県立静岡癌センター　胃外科	胃癌におけるT cell inflamed gene expression signatureを用いたphenotypeの解析
	安川佳美	国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野	胃がんのがん関連線維芽細胞における高発現遺伝子SAA1の同定
	北川彰洋	九州大学病院　別府病院　外科	肝内胆管癌における腫瘍内不均一性と進化の過程の探求
研究奨励賞	良元俊昭	徳島大学　消化器・移植外科	青色LEDによる大腸癌の光受容体をターゲットとする治療法の開発
	保田智彦	日本医科大学　消化器外科	胃底腺幹細胞マーカーの同定
	井口詔一	九州大学大学院　医系学府 消化器・総合外科	肝癌増殖におけるoptineurin発現の意義
	内原智幸	熊本大学大学院　消化器外科学	胃癌cancer associated fibroblasts由来細胞外小胞による薬剤治療抵抗性メカニズムの解明
	村主　遼	群馬大学大学院肝胆膵外科学	肝細胞癌における免疫チェックポイント分子（B7 family）発現の機序解明と革新的新規治療の創造
	山田玲央	福島県立医科大学　消化管外科学	胃癌発生に関与するCDX2とIL-6/STAT3シグナルの検討
	梅田晋一	名古屋大学　消化器外科学	LAMP5/VSX1遺伝子の胃癌転移形成責任分子としての機能解析
一般演題	栗山健吾	群馬大学大学院総合外科学	FDG-PET, FAMT-PETを利用した食道扁平上皮癌における局所腫瘍免疫状態の評価
	上原将大	金沢大学 がん進展制御研究所 腫瘍制御	GSK3βは膵がんのゲムシタビン耐性獲得に寄与する
	坂本直也	国立がんセンター 先端医療開発センター 臨床腫瘍病理分野	5-FU耐性胃がんオルガノイドを用いたメタボローム解析
	Dilireba Bolidong	金沢大学　がん進展制御研究所 腫瘍制御	GSK3β阻害による食道扁平上皮がんの治療効果とメカニズム
	城後友望子	九州大学大学院　消化器・総合外科	FGFR2増幅を有する胃癌の腫瘍浸潤性免疫細胞のプロファイルについての検討
	加治早苗	順天堂大学医学部付属順天堂医院 消化器低侵襲外科	胃癌におけるβアラニンの抗腫瘍効果の検討
	土谷博之	鳥取大学医学部遺伝子医療学分野	長鎖非コードRNA NEAT1とp21CDKN1Aによる肝癌幹細胞制御メカニズム
	西脇紀之	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科、 消化器外科学	がん関連線維芽細胞由来IL-6制御による免疫応答の効率化 “Drug repositioning”によるがん治療の可能性
	齋藤　晶	自治医科大学附属病院　消化器一般移植外科	フローサイトメトリーを用いた大腸癌組織における細胞別PD-L1発現解析

一般演題	松村和季	熊本大学大学院　消化器外科学	膵癌微小環境における細胞外マトリックスThrombospondin-1の分子生物学的意義に関する検討。
	黒田顕慈	大阪市立総合医療センター　消化器外科	胃癌間質におけるThrombospondin 4発現の意義
	秋山貴彦	熊本大学大学院　消化器外科学	癌微小環境における胃癌浸潤に関わる分子メカニズムの解明
	坂本浩輝	神戸大学医学研究科 病理学講座病理学分野	癌関連線維芽細胞はPAI-1の分泌を介して食道扁平上皮癌の進展に寄与する
	工藤健介	国立病院機構九州医療センター 消化管外科　臨床研究センター	RNAメチル化酵素METTL3と消化管癌の関連性の探索
	宮崎克己	徳島大学消化器外科	肝内胆管癌予後規定因子としてのリンパ球CRP比の意義と腫瘍浸潤リンパ球との関係
	岩槻政晃	熊本大学大学院　消化器外科学	胃癌細胞におけるTrastuzumabが与えるPD-L1発現への影響
	宮下　優	九州大学大学院　消化器・総合外科	胃癌HER2 増幅症例における腫瘍局所免疫環境の検討
	森　拓哉	大阪市立大学大学院　消化器外科	胃癌組織におけるCD103＋T細胞とCD8＋腫瘍浸潤リンパ球に関する検討
	坂本悠樹	熊本大学大学院　消化器外科学	大腸癌肝転移巣におけるFusobacterium nucleatum、CD8陽性T細胞、腫瘍関連マクロファージ
	出口惣大	大阪市立大学大学院　医学研究科 消化器外科学	食道扁平上皮癌におけるTertiary Lymphoid Structures（TLS）の影響
	杉村直美	名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学	大腸がんに対する腫瘍溶解性ウイルスを用いたがん免疫療法の基礎的検討
	野元大地	熊本大学大学院　消化器外科学	消化器癌における術前末梢血PD-1陽性リンパ球についての検討
	鈴木拓	札幌医科大学医学部分子生物学講座	大腸鋸歯状腺腫におけるSMOC1遺伝子メチル化異常の検討
	小池健輔	九州大学病院別府病院 外科	大腸癌における新規癌遺伝子GET4の機序解明
	西山和宏	国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野	根治的化学放射線療法耐性である食道扁平上皮癌におけるFGF5遺伝子の役割
	溝上晴恵	千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学	EBV陽性上咽頭癌におけるヒストン修飾異常
	南原　翔	独立行政法人国立病院機構九州医療センター　消化管外科　臨床研究センター	7番染色体上の大腸癌新規癌遺伝子であるGTF2IRD1の同定
	鵜飼翔一	広島大学大学院医系科学研究科 分子病理学研究室	5-FU耐性胃癌オルガノイドの樹立とその癌遺伝学的解析
	瀬良知央	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器外科	次世代シークエンサーを用いたRNA-seqによるスキルス胃癌ドライバー遺伝子の探索
	古川健一朗	静岡県立静岡がんセンター　胃外科	日本人胃腺がんにおけるTCGA、ACRG分類とその生存転帰に与える影響
	藤谷啓一	静岡がんセンター胃外科	胃癌細胞株におけるPARP阻害薬のバイオマーカー探索
	中村俊介	名古屋大学　消化器外科学	胃癌予後とSTRA6遺伝子発現の関連性の検討
	崎村千恵	市立柏原病院	当院における85歳以上超高齢者大腸癌に対する手術リスク評価法Estimation of Physiologic Ability and Surgical Stressの有用性の検討
	石川　洸	呉医療センター・中国がんセンター 臨床検査科	早期胃癌においてAnnexin A10発現消失は予後不良と関係する
	澤木康一	名古屋大学医学部消化器外科学	胃癌におけるMAGEA6の新規バイオマーカーとしての有用性の検討
	倉島研人	京都府立医科大学　消化器外科	胃癌におけるLeucine-Rich Repeat-Containing protein 8A (LRRC8A)の役割と予後に与える影響について
	深田 Masahiro	岐阜大学医学部　腫瘍外科	組織MIR92aと血漿中MIR21・29aは大腸癌の予後・治療効果マーカーになりうる
	江藤祥平	徳島大学　外科学	下部進行直腸癌におけるCRT後のリンパ球CRP比（LCR）は予後不良因子となる
	加藤　喬	神戸大学医学部附属病院　食道胃腸外科	鼠径リンパ節転移陽性直腸癌に対する治療戦略
	伊勢田憲史	九州大学大学院　消化器・総合外科	ARID1A発現と肝細胞癌予後に関する検討
	山田眞一郎	徳島大学消化器・移植外科	ソラフェニブ耐性肝癌において、Nrf2は幹細胞性・遊走能・ABCトランスポーター発現を促進する
	藤川正隆	神戸大学大学院医学研究科 病理学分野病理学講座	腫瘍関連マクロファージ由来のCCL1はCCR8を介して食道扁平上皮癌の運動能・浸潤能を亢進させる
	土谷博之	鳥取大学医学部 遺伝子医療学分野	肝細胞癌における長鎖非コードRNA NEAT1とCD44発現および予後との関連
	栂野真吾	泉大津市立病院　外科・内視鏡外科	腫瘍先進部―漿膜間距離（DIFS）測定は治癒切除したT3胃癌の腹膜播種再発の予測に有用である
	木下和也	千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学	電気穿孔法による胃癌由来エクソソームを用いた新規抗がん剤治療法の確立
	木村有希	自治医科大学消化器一般移植	miR-29bはヒト由来腹膜中皮細胞の中皮間葉転換を抑制する
	田尻裕匡	国立病院機構　別府医療センター　外科	大腸癌におけるDOCK1発現の意義
	松井信平	慶應義塾大学医学部外科学教室	肥満関連大腸癌発癌についての研究
	赤羽慎太郎	広島大学大学院　分子病理学	大腸癌におけるCLIC3の臨床病理学的な意義について
	与儀憲和	千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学	ウイルス関連膵癌の探索
	間野洋平	国立病院機構九州がんセンター 肝胆膵外科	Stage I 膵癌の特徴と再発危険因子の同定
	滝口光一	山梨大学医学部外科学講座第1教室	結腸癌におけるNADPH oxidese2の臨床的意義
	加藤俊治	京都府立医科大学	胃癌におけるTRPV2の役割
	長谷川　毅	馬場記念病院　外科	長期生存が得られたStage Ⅳ胃癌の2例
	高橋　諒	和泉市立総合医療センター　外科	術前診断に難渋した胆嚢粘液性嚢胞腺腫の1例
	中川泰生	馬場記念病院	早期（SM）直腸癌術後に多発肝転移および骨転移を来し、急速に進行した1例
	上原英雄	国立病院機構　九州がんセンター 消化管外科	術前診断に苦慮した大網GISTの1例
	孝橋里花	大阪掖済会病院　外科	肺およびリンパ節転移再発に対する集学的治療にて長期生存をえた直腸癌の一例
	山越義仁	大野記念病院	上行結腸癌術後同時性肝転移が自然消失した1例
	松岡　翼	社会医療法人弘道会 なにわ生野病院　外科	乳房外パジェット病肛門部再発に対し広範囲切除および会陰部皮弁形成・移動再建術を行った1例

第30回日本消化器癌発生学会を終えて

聖マリアンナ医科大学　消化器・肝臓内科　**伊東 文生**

第30回日本消化器癌発生学会を令和元年11月7日(木)・8日(金)の両日、横浜市のホテルメルパルク横浜で開催させていただきました。好天に恵まれた中およそ240名の参加を得て順調に予定日程を執り行うことができました。

第30回のテーマとして「先端科学との接点と求めてーAIとロボット技術ー」を取り上げました。本学会はこれまでも外科・内科・病理・基礎の交流を図り、消化器癌における新しい潮流について有意義な議論をしてきた歴史がありますが、近年の話題としてAIおよびロボットに焦点を置いた内容でした。

特別講演は香港のYuk Ming Denis Loに「Plasma DNA fragmentomics and topologics: understanding of biology drives new application」というタイトルで講演していただきました。血液遺伝子診断について世界最先端の内容をわかりやすく講演いただきました。さらに藤田医科大学総合消化器外科の宇山一朗教授に「消化器外科におけるロボット技術の現状と展望」をお話しいただきました。

学会の30周年にあたる企画として田原栄一先生に「The history and Future of JSGC・ISGC-From Genome Analysis to Preemptive Medicine」を、上西紀夫先生に「学会の発生から進展、そして今後」をそれぞれお話しいただきました。

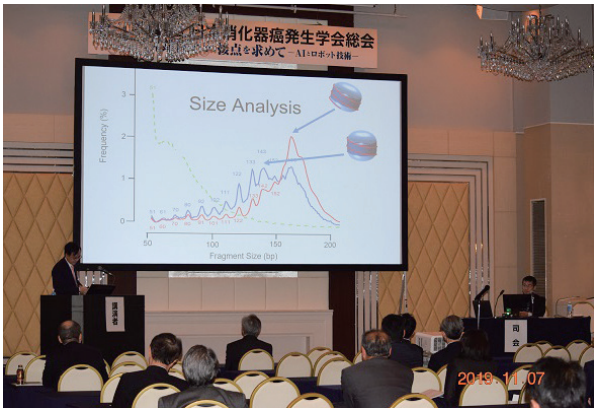
教育講演では名古屋大学の久木田水生先生に「AI社会の作り方：ディストピアかユートピアか」、東京医科歯科大学の絹笠祐介先生に「下部消化管領域におけるロボット手術の現状と未来」、国立がん研究センター研究所の浜本隆二先生に「臨床応用を指向したメディカルAI研究の現状と将来への展望」をそれぞれお話しいただきました。

島田光生理事長には「日本消化器癌発生学会の「創始と継志」―次の10年へ」をお話しいただきました。

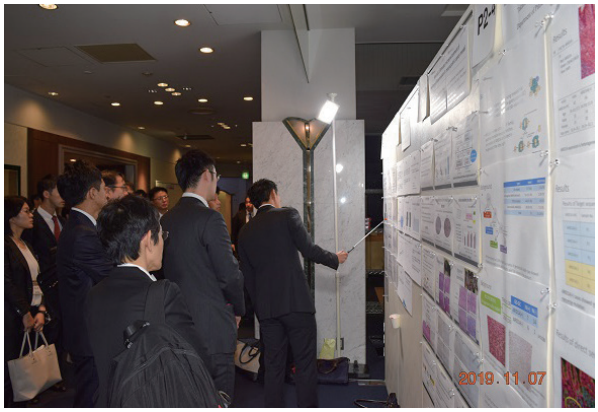
大原毅賞授賞講演は徳島大学森根裕二先生、田原栄一賞は千葉大学金田篤志先生に行っていただきました。

そのほかにシンポジウム4題、ワークショップ5題、理事長直轄プロジェクト、研究奨励賞の発表、ランチョンセミナー4題、イブニングセミナー1題がありました。ポスターによる発表は36題行われましたが非常に盛り上がった発表風景でした。

全国から多くの先生方にご参加いただきました。また、学会役員・評議員の先生方の多大なご尽力をいただきました。学会を裏から支えていただいた(株)クバプロ、聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科医局の先生方に厚く御礼を申し上げます。



会場の様子



ポスター発表の様子

一般社団法人日本消化器癌発生学会　学会賞に関する規程

第1条　総則

日本消化器癌発生学会の学会賞については、定款並びに細則定められるもののほかは、この規程による。

第2条　大原賞、田原賞に関する規程

1. 日本消化器癌発生学会は本学会の設立に功績のあった大原毅博士、田原榮一博士を記念して、大原毅賞（大原賞）、田原榮一賞（田原賞）を設け、優れたがん研究者に授与してその功績を表彰し、もって消化器癌発生研究の一層の振興をはかる。
2. 大原賞は臨床医学分野の施設において、田原賞は基礎医学分野の施設において優れた業績を挙げた研究者の功績を讃える。
3. 受賞者は1年に各1名を原則とする。
4. 授賞候補者は、該当年の1月1日付で50歳未満の日本消化器癌発生学会会員とし、本学会評議員の推薦のもと公募し、学会賞選考委員会にて選考する。
5. 大原賞、田原賞応募者は学会ホームページに公開される要項に従い、応募書類を本会事務局に提出する。

第3条　研究奨励賞に関する規程

1. 助成対象課題は発がん、がんの進展に関する基礎研究とする。
2. 助成対象者は前項に掲げた研究を開始する、該当年の1月1日付で40歳未満の研究者で日本消化器癌発生学会の会員とし、学会賞選考委員会にて選考する。
3. 推薦者は日本消化器癌発生学会の評議員とし、推薦件数は研究機関内選考等により1推薦者に原則として1件とする。
4. 受賞者は1年に5名程度とし、受賞者には助成金として1件20万円程度を授与する。
5. 研究助成金の交付対象となる経費は、研究に要する物品の購入費用及びその研究の推進に必要な費用とする。
6. 研究奨励賞応募者は学会ホームページに公開される要項に従い、応募書類を本会事務局に提出する。

第4条　本規程の改正

本規程は理事会の議を経て改正することができる。

日本消化器癌発生学会　大原　毅賞・田原榮一賞・研究奨励賞　歴代受賞者一覧

令和2年度

大原　毅賞受賞者

・**伊藤心二**（九州大学大学院　消化器・総合外科学・助教）
　肝胆膵悪性腫瘍における宿主および腫瘍免疫の意義とストレス応答の役割

田原榮一賞受賞者

・**石本崇胤**（熊本大学大学院　生命科学研究部　消化器外科学）
　胃がん間質ダイバーシティの解明と治療標的の創出

研究奨励賞受賞者

・**高須千絵**（徳島大学）
　Nrf2を介した微小環境クロストークによる肝細胞癌薬剤耐性機序解明に関する研究
・**松井信平**（慶應義塾大学　外科学教室　一般・消化器外科）
　遺伝子発現解析を用いた、肥満関連大腸癌の発癌における微小環境変化の解明
・**中澤信博**（群馬大学大学院総合外科学）
　細胞接着分子に注目した胃癌進展機序解明と革新的治療戦略の構築
・**安田忠仁**（熊本大学大学院　生命科学研究部　消化器外科学分野）
　腫瘍間質細胞によって促進される胃癌腹膜播種進展メカニズムの解明
・**澤木康一**（名古屋大学医学部大学院　医学研究科　消化器外科学専攻）

細胞膜受容体GABRDを標的とした新規胃癌治療の開発
・**星野弘毅**（群馬大学大学院総合外科学講座　肝胆膵外科学分野）
肝胆膵癌における直鎖状ユビキチン関連シグナルの機能解析と革新的治療開発を目指した基礎的研究
・**西村貞徳**（大阪市立大学大学院　医学研究科）
肝転移巣癌関連線維芽細胞からの膵癌肝転移マーカーおよび治療標的分子の同定
・**羽村凌雅**（東京慈恵会医科大学　外科学講座）
膵癌におけるライソゾーム機構の分子機序解明と革新的治療の開発
・**脇坂和貴**（北海道大学大学院　医学研究院　消化器外科学教室Ⅰ）
肝細胞癌におけるWnt5aの発現の意義とβカテニン非依存性Wntシグナル経路を標的とした治療への応用
・**伊勢田憲史**（九州大学　消化器総合外科）
肝細胞癌における抗癌剤耐性に関するバイオマーカーの検討

令和元年度

大原　毅賞受賞者
・**森根裕二**（徳島大学　消化器・移植外科・准教授）
原発性肝癌の分子生物学的アプローチによる腫瘍悪性度評価

田原榮一賞受賞者
・**金田篤志**（千葉大学大学院　分子腫瘍学・教授）
ウイルス感染がもたらす固有のエピゲノム異常と消化管腫瘍サブタイプの同定

研究奨励賞受賞者
・**井口詔一**（九州大学大学院　医系学府　消化器・総合外科）
肝癌増殖におけるoptineurin発現の意義
・**内原智幸**（熊本大学大学院　消化器外科学）
胃癌cancer associated fibroblasts由来細胞外小胞による薬剤治療抵抗性メカニズムの解明
・**梅田晋一**（名古屋大学　消化器外科学）
LAMP5/VSX1遺伝子の胃癌転移形成責任分子としての機能解析
・**村主　遼**（群馬大学大学院肝胆膵外科学）
肝細胞癌における免疫チェックポイント分子（B7 family）発現の機序解明と革新的新規治療の創造
・**保田智彦**（日本医科大学　消化器外科）
胃底腺幹細胞マーカーの同定
・**山田玲央**（福島県立医科大学　消化管外科学）
胃癌発生に関与するCDX2とIL-6/STAT3シグナルの検討
・**良元俊昭**（徳島大学　消化器・移植外科）
青色LEDによる大腸癌の光受容体をターゲットとする治療法の開発

平成30年度

大原　毅賞受賞者
・**能正勝彦**（札幌医科大学　消化器内科学講座　講師）
消化器癌のmicroRNA・エピゲノム異常の解明と発癌におけるmicrobiotaの役割

田原榮一賞受賞者
・**横堀武彦**（群馬大学 未来先端研究機構　講師）
固形癌における微小管関連タンパクStathmin1の臓器横断的な発現意義と機能に関する研究

研究奨励賞受賞者
・**芦澤　舞**（福島県立医科大学　消化管外科学講座）
ARID1A変異胃癌の分子生物学・臨床病理学的解析
・**胡　慶江**（九州大学　消化器・総合外科学）
公共データベースを用いて同定した新規癌遺伝子OSBPL3の胃癌における生物学的意義と臨床学的意義
・**三輪高嗣**（名古屋大学大学院医学研究科　消化器外科学専攻）
ゲノム編集技術を応用した胃癌肝転移関連分子の機能解析

・**山中崇弘**（群馬大学大学院　肝胆膵外科学）
肝細胞癌に対する癌関連線維芽細胞を標的とした新たな治療開発を目指した基礎研究
・**山田眞一郎**（徳島大学　消化器・移植外科）
肝胆膵外科悪性腫瘍における腫瘍関連マクロファージ活性化の機序解明に関する研究
・**菅野伸一**（札幌医科大学　消化器内科）
ESD検体を用いた大腸発癌早期におけるFusobacterium解析とエピゲノム異常との関連性
・**島垣智成**（国立国際医療研究センター　肝炎・免疫研究センター）
microRNAによる肝細胞癌の高悪性度形質転換の分子機序解明

平成29年度

大原　毅賞受賞者
・**沖　英次**（九州大学病院　第二外科・診療准教授）
がん集学的治療を目的としたゲノム不安定性を標的とする新規遺伝子診断法の開発

田原榮一賞受賞者
・**鈴木　拓**（札幌医科大学　分子生物学講座・教授）
消化器発癌におけるDNAメチル化異常の機能的意義の解明とその応用

研究奨励賞受賞者
・**原田　結**（九州大学）
腫瘍組織の特性を反映する新規定量法に基づいたがん難治性メカニズムの解明
・**石井範洋**（群馬大学大学院病態総合外科）
癌関連線維芽細胞を標的とした膵癌の新たな治療戦略
・**中司　悠**（九州大学 消化器・総合外科）
散発性大腸癌におけるBRAF（V600E）変異の効率的な検出法の確立とそれを利用した新しい治療法の構築
・**柏原秀也**（徳島大学　消化器・移植外科学）
大腸癌細胞に対するLEDの効果と光受容体の関与についての研究
・**六反啓文**（国立がん研究センター　研究所）
胃粘液癌の包括的ゲノム解析及び予後層別化への応用
・**末永雅也**（名古屋大学大学院医学系研究科　消化器外科学）
リキッドバイオプシーを応用した膵癌術前治療に対する新規効果判定法の開発
・**下川雅弘**（九州大学大学院　消化器・総合外科）
ストレス応答転写因子Nrf2をターゲットとした肝細胞がんの進展及び細胞内代謝改変の制御に関する研究
・**高橋　遼**（群馬大学大学院医学研究科　総合外科学）
微小腹膜播種モデルマウスにおけるLuciferase assayを用いた新規の薬効評価法の検討

平成28年度

大原　毅賞受賞者
・**馬場祥史**（熊本大学　消化器外科）
消化器癌におけるジェネティック・エピジェネティックバイオマーカーの探索

田原榮一賞受賞者
・**谷内田真一**（国立がん研究センター研究所）
膵胆がんのゲノム異常とがんクローン進化に関する研究

研究奨励賞受賞者
・**坂本直也**（広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理）
CRISPER/Cas9を用いた腸型・胃型胃癌オルガノイドモデルの樹立
・**木村明春**（群馬大学大学院病態総合外科学）
接着分子に注目した胃癌化学療法の抵抗性についての研究
・**堤　智崇**（九州大学消化器・総合外科）
食道扁平上皮癌におけるPD-L1発現と上皮間葉移行の生物学的意義に関する研究
・**塚越真梨子**（群馬大学大学院　肝胆膵外科学）

核ー細胞質間輸送蛋白KPNA2を標的とした胆管癌の新たな治療戦略
・**田中晴祥**（名古屋大学附属病院）
胃癌肝転移に対する特異的診断・治療標的分子の開発
・**王　歓林**（九州大学機能病態病理学）
肝細胞がんにおけるSALI4、HDAC1およびHDAC2発現の生物学的意義に関する研究
・**栗原弘義**（JR札幌病院）
Molecular classificationに基づいた大腸癌のmicroRNA解析と診断・治療への応用
・**岩橋衆一**（徳島大学　消化器・移植外科）
肝星細胞による肝癌進展増強・薬剤耐性獲得の機序解明に関する研究
・**波多　豪**（大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学）
大腸癌発癌過程でのmicroRNAによるエピゲノム変化の解析
・**濱田隼一**（京都府立医科大学　消化器外科）
食道扁平上皮癌におけるRNA結合蛋白質TIA1の機能制御による抗腫瘍効果の検討

平成27年度
大原　毅賞受賞者
・**山本博幸**（聖マリアンナ医科大学　内科学）
消化器癌のゲノム研究から導き出した次世代の包括ゲノム解析法の開発と臨床応用
田原榮一賞受賞者
・**柴田龍弘**（東京大学　医科学研究所）
肝胆道系がんを対象としたがんゲノム解読とそれを起点としたトランスレーショナル研究
研究奨励賞受賞者
・**清水　大**（名古屋大学大学院　医学研究科　消化器外科学）
Transcriptome解析により胃癌肝転移関連遺伝子として検出したG protein-coupled receptor 155（GPR155）の発現及び機能解析
・**岩槻政晃**（熊本大学大学院　消化器外科学）
消化管間質腫瘍（gastrointestinal stromal tumor ; GIST）におけるイマチニブ耐性に関与するmicroRNA-gene pathwayの同定
・**三橋　慧**（札幌医科大学消化器・免疫・リウマチ内科学講座）
消化器発癌における常在微生物群ゲノムの重要性と分子異常・免疫応答との関連
・**向山順子**（神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野）
がん幹細胞特異的マイクロRNAを標的とした大腸がん新規治療法の開発

平成26年度
大原　毅賞受賞者
・**三森功士**（九州大学病院別府病院　外科）
消化器癌におけるゲノム・エピゲノムレベルにおける進化の解明と難治性を生む多様性の克服
田原榮一賞受賞者
・**向所賢一**（滋賀医科大学　分子診断病理）
十二指腸液逆流に関連した上部消化管の発癌及び進展過程
研究奨励賞受賞者
・**五十嵐央祥**（札幌医科大学　消化器・免疫・リウマチ内科学講座）
大腸腫瘍の分子診断・個別化治療における新規バイオマーカー探索を目指したnon-coding RNAの網羅的解析
・**大原利章**（岡山大学大学院　医歯薬総合研究科　消化器外科）
固形癌に対する除鉄誘導療法の確立
・**神田光郎**（名古屋大学　消化器外科学）
早期診断への応用を目指した、膵癌前癌病変の癌化過程に関わる新規遺伝子変異の同定
・**財津瑛子**（九州大学大学院　消化器・総合外科）
胃癌におけるEncoding phosphate and tensin homolog（PTEN）の発現と予後及び

HER2発現との関連に関する検討
・**澤山　浩**（熊本大学大学院　消化器外科学）
嫌気性代謝関連蛋白による抗癌剤耐性機序の解明と低分子化合物を用いた新規治療法の開発
・**田尻裕匡**（九州大学大学院　消化器・総合外科）
がん細胞の浸潤・転移におけるDOCK1の役割とその制御機構の解明
・**林　洋光**（熊本大学大学院　消化器外科学）
ヒト癌組織における腫瘍抑制シグナルHippo pathwayの破綻による癌幹細胞能獲得機構の解明と臨床的特徴へのアプローチ
・**渡辺　亮**（群馬大学　病態総合外科学（第一外科））
IPMNにおいてSTMN1は増殖シグナルを活性化させ発癌に寄与する

平成25年度

大原　毅賞受賞者
・**野村幸世**（東京大学　消化管外科）
血清TFFを用いた胃癌スクリーニングの可能性の検討

田原榮一賞受賞者
・**塚本徹哉**（藤田保健衛生大学　病理診断科）
腸上皮化生と胃癌の発生進展機構の解明とその化学予防

研究奨励賞受賞者
・**田中　守**（名古屋市立大学　消化器・代謝内科）
新規光感受性物質である糖鎖連結クロリンによる光線力学的診断の開発
・**川俣　太**（北海道大学病院　消化器外科学分野I）
大腸癌浸潤・転移におけるchorionic gonadotropin-βの機能解析とその臨床応用
・**戸島剛男**（九州大学大学院　消化器・総合外科）
肝細胞がんにおけるオートファジーの生物学的意義について
・**宮林弘至**（東京大学　消化器内科）
膵発癌マウスモデルを用いた治療薬の効果・メカニズムの検討と新規治療標的分子の検討
・**及能大輔**（札幌医科大学　外科学第一講座）
ヒト正常水管上皮細胞及び膵癌細胞株を用いたPKCシグナル分子を標的とした膵癌分子標的治療の基礎的研究PKCα阻害作用とタイト結合発現調節機構
・**品川　慶**（広島大学病院　内視鏡診療科）
骨髄間葉系幹細胞の大腸癌増殖促進機構におけるメタロチオネインの重要性に関する研究
・**中島雄一郎**（広島赤十字・原爆病院　外科）
食道扁平上皮癌のcollective cell invasionにおけるpodoplanin発現の意義に関する研究

平成24年度

大原　毅賞受賞者
・**宇都宮　徹**（徳島大学　消化器・移植外科）
非癌部肝組織に着目した肝発癌分子機構の解明：DNA、miRNA、DNAmethylationマイクロアレイを用いた包括的解析

田原榮一賞受賞者
・**牛島俊和**（独立行政法人　国立がん研究センター研究所発がん研究部）
ピロリ菌感染によるエピジェネティック異常誘発の解明と発がんリスク診断への応用

研究奨励賞受賞者
・**大上直秀**（広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学）
胃癌細胞の非対称性分裂時における胃型・腸型形質発現の変化
・**島田　周**（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子腫瘍医学分野）
未分化型胃がんマウスモデルを利用した新規分子標的治療薬の開発
・**武谷憲二**（九州大学　消化器・総合外科）

大腸癌転移におけるWnt-β-カテニン経路でのATF3の新規バイオマーカーとしての意義の解明
・**馬場祥史**（熊本大学　医学部　消化器外科）
CGH microarrayを用いた食道癌LINE-1 hypomethylationの機能的メカニズム解析
・**坂部友彦**（鳥取大学大学院医学系研究科遺伝子医療学）
肝癌幹細胞における細胞内シグナルネットワーク解析

平成23年度
研究奨励賞受賞者
・**石本崇胤**（熊本大学　消化器外科）
消化器癌細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用
・**北原秀治**（東京女子医科大学　医学部　解剖学・発生生物学講座）
微小循環系の制御が腫瘍の悪性化抑制につながるか？
・**神藤　理**（医療法人寿楽会　大野記念病院　外科）
胃癌の増殖進展におけるTGFβR/Smadシグナルの意義と分子標的治療の検討
・**仙谷和弘**（広島大学大学院医歯薬学総合研究科　分子病理）
消化管癌転移巣の探索的オミックス解析による診断・治療マーカーの同定と癌幹細胞との関連
・**間野洋平**（九州大学大学院　形態・機能病理）
肝細胞癌の増殖・進展におけるSTAT3シグナルの役割と腫瘍関連マクロファージによる
STAT3活性化の解明に関する研究
・**安藤幸滋**（九州大学大学院　消化器・総合外科）
胃癌におけるシャペロンタンパク質Mortalinによるp53抑制の分子機序解明
・**能正勝彦**（札幌医科大学　第1内科）
消化器癌のグローバルDNAメチル化、microRNAの異常発現の解析とそれらを標的とした予後予測、
個別化治療の可能性

日本消化器癌発生学会特別研究推進 理事長直轄プロジェクト「発癌・進展におけるゲノム・エピゲノムの最新のトピックス」のご報告

令和2年2月15日（土）に徳島大学病院 藤井節郎記念医科学センター（1F：センターホール）にて一般社団法人日本消化器癌発生学会理事長直轄プロジェクト特別推進研究「発癌・進展におけるゲノム・エピゲノムの最新のトピックス」の研究発表会が行われました。

まず最初に、金田篤志先生（千葉大学大学院医学研究院　分子腫瘍学　教授）に基調講演をいただき、続いて4名の委員から、最新のご発表をいただき、活発なディスカッションが行われました。発表の後、島田光生理事長から、プロジェクト委員への委嘱状の授与とともに、懇親会が行われました。

日本消化器癌発生学会特別研究推進 理事長直轄プロジェクト
「発癌・進展におけるゲノム・エピゲノムの最新のトピックス」
日時：2020年2月15日（土）　15：00 ～ 17：00
場所：徳島大学病院　藤井節郎記念医科学センター（1F：センターホール）

プログラム
〈開会の辞〉 15：00 ～ 15：05
島田　光生（日本消化器癌発生学会　理事長、徳島大学　消化器・移植外科学　教授）

〈基調講演〉 15：05 ～ 15：35
「ウイルス感染がもたらす固有のエピゲノム異常と胃癌症例層別化」
演者：金田篤志（千葉大学大学院医学研究院　分子腫瘍学　教授）
司会：居村　暁（徳島大学　地域外科診療部　特任教授）

〈理事長直轄プロジェクト発表〉 15：40 ～ 16：50（各発表10分・質疑応答8分）
司会：森根裕二（徳島大学　消化器・移植外科学　准教授）
「食道胃接合部がんの起源細胞を予測するDNAメチル化マーカーの開発」
演者：張　春東（国立がん研究センター研究所　エピゲノム解析分野）
「胃癌におけるT cell inflamed gene expression signatureを用いたphenotypeの解析」
演者：中村健一（静岡県立静岡癌センター　胃外科）
「胃がんのがん関連線維芽細胞における高発現遺伝子SAA1の同定」
演者：安川佳美（国立がん研究センター研究所　エピゲノム解析分野）
「肝内胆管癌における腫瘍内不均一性と進化の過程の探求」
演者：北川彰洋（九州大学病院　別府病院　外科）

〈閉会の辞〉 16：55 ～ 17：00
島田光生（日本消化器癌発生学会　理事長、徳島大学　消化器・移植外科学　教授）

令和元年度一般社団法人日本消化器癌発生学会理事会議事録

日　時：令和元年11月6日（水）　16：30 ～ 17：30
会　場：ホテルメルパルク横浜　コハク

出席者（敬称略）
　理　事：　島田　光生、伊東　文生、汐田　剛史、三森　功士、調　憲、松原　久裕、夏越　祥次、
　　掛地　吉弘、馬場　秀夫、落合　淳志、源　利成、牛島　俊和、三森　功士
　監　事：　太田　哲生
　事務局幹事：愛甲　丞、居村　暁、野村　幸世、森根　裕二
　次期総会会長：大平　雅一
委任状（敬称略）
　理　事：　大辻　英吾、安井　弥、瀬戸　泰之、鈴木　拓、森　正樹、横崎　宏、菅井　有

【次　第】
1. 理事長挨拶
　開会に先立ち島田光生理事長より挨拶があった。

2. 議事録署名人指名
　島田理事長は議事録署名人に掛地吉弘理事、三森功士理事を指名し、全会一致で承認された。

3. 議　事

【議　事】

第1号議案　庶務報告

居村事務局幹事より2018年総会後1年間の入退会者数等会員の現況が報告された。

第2号議案　役員選考委員会報告

役員選考委員会について、馬場秀夫委員長より以下の報告が行われた。

①名誉会員・特別会員について

・名誉会員の北島政樹先生が逝去された。

・役員定年に伴い、杉原洋行先生、松原長秀先生、峯徹哉先生が特別会員に推挙された。

②役員選考について

・新理事候補として以下の先生方が推薦されている。

野村　幸世（東京大学　消化管外科学分野）

加藤　直也（千葉大学　消化器内科）

相島　慎一（佐賀大学　病因病態科学診断病理学分野）

常山　幸一（徳島大学　疾患病理学分野）

金田　篤志（千葉大学　分子腫瘍学）

谷内田真一（大阪大学　がんゲノム情報学）

・新監事として安井弥理事が推挙された。

③次々期会長選考について

・次々期大会長には野村幸世事務局幹事が推薦されている。

④代議員選考について

・新規代議員には以下の3名の先生方が推薦されている。

松尾　洋一（名古屋市立大学　消化器外科）

吉田　　寛（日本医科大学　消化器外科）

志村　貴也（名古屋市立大学大学院医学研究科　消化器代謝内科学）

以上について審議し、新役員案について全会一致で承認された。

第3号議案　国際委員会報告

国際委員長の安井理事が欠席のため、野村事務局幹事より、次回国際学会は2021年の第32回日本消化器癌発生学会総会と合同で、岐阜大学吉田和弘先生会長のもと開催される予定であることが報告され、全会一致で了承された。

第4号議案　研究推進委員会報告

三森研究推進委員長より動物実験システムのマッチングについて報告があった。

また、三森委員長から、研究推進委員会からの提案として以下の2点が挙げられた。

・『ドライ解析（公共データベースでの追加解析程度）サポート』

・次年度総会の特別講演の候補者として、消化器発がん研究に関するごく最近のブレイクスルー研究を行った研究者を推薦したい。

次年度総会特別講演の候補者については、大平次期大会長と三森委員長で協議し進めていくことが承認された。

第5号議案　学会賞選考委員会報告

調学会賞選考委員長より、今年度大原毅賞、田原榮一賞、研究奨励賞受賞者について

以下の通り報告された。また、研究奨励賞の賞金については総額100万円程度となっていることから、1名あたり15万円とすることが報告され、全会一致で承認された。

大原　毅賞受賞者　　森根　裕二　先生（徳島大学　消化器・移植外科）

田原榮一賞受賞者　　金田　篤志　先生（千葉大学）

研究奨励賞受賞者　良元　俊昭　先生（徳島大学　消化器・移植外科）
保田　智彦　先生（日本医科大学　消化器外科）
井口　詔一　先生（九州大学大学院　医系学府　消化器・総合外科）
内原　智幸　先生（熊本大学大学院　消化器外科学）
村主　　遼　先生（群馬大学大学院肝胆膵外科学）
山田　玲央　先生（福島県立医科大学　消化管外科）
梅田　晋一　先生（名古屋大学　消化器外科学）

第６号議案　倫理問題検討委員会報告

吉田倫理問題検討委員長が欠席のため、野村事務局幹事より今年度の役員のCOI自己申告書の提出状況を点検し、問題なかったことが報告された。また、今年度から、総会の演題登録の際に、学内・施設内で倫理審査を受けているかを記入するチェックボックスを設けることなっており、適切に実施されていることも併せて報告され、全会一致で了承された。

第７号議案　財務委員会報告

掛地財務委員長より平成30年度収支決算について以下の報告が行われた。

・収入の部について、一般会員の会費収入、バナー高校収入が落ち込んだものの、代議員の会費収入や、第29回総会が黒字となり、残金として240万円余を学会会計に繰り入れていただいたことにより、大きな収入増となった。
・支出の部については、クバプロが立て替えていた法人住民税などを生産した分が予算を上回ったが、それ以外はほぼ例年通りの支出であった。

また、本決算案について太田哲生監事より、適切に執行されていることを確認したとの報告があり、審議の結果平成30年度決算案は全会一致で承認された。

また、掛地財務委員長より令和元年度予算案について、例年通りの予算立てとなっている旨説明があり、審議の結果全会一致で承認された。

第８号議案　在り方委員会報告

在り方委員会の夏越祥次委員長より、在り方委員会、理事会での議論について以下の通り報告された。

・会員数、総会参加者の増加について、会員数1,000人を目標に、特に基礎系会員の増加を目指すことが確認された。
・前原前理事長、前原理事長のもと、総会での発表も行われるなど、理事長直轄プロジェクトが順調に行われている。
・総会のポスター、スライドについては英語化を推進することが確認された。

第９号議案　会則委員会報告

今年度は特に会則の変更などがないことが、汐田委員長より報告された。

第10号議案　第29回学会総会（2018年）報告

第29回日本消化器癌発生学会総会について、落合前会長より非常に盛況であり黒字で学会に還元することができた旨報告があった。島田理事長からは落合前会長に対して感謝の意が述べられた。

第11号議案　第30回学会総会（2019年）

伊東会長より第30回総会のプログラム等について報告が行われた。

第12号議案　第31回学会総会（2020年）準備報告

第31回日本消化器癌発生学会総会について、大平会長より以下の概要が報告され、理事各位に対して協力が呼びかけられた。

第31回 日本消化器癌発生学会総会「癌組織の細胞社会を解き明かす」
会　長：大平　雅一（大阪市立大学大学院医学研究科）
会　期：2020年11月26日（木）・27日（金）
会　場：大阪国際会議場

第13号議案　第32回学会総会（2021年）について

第32回日本消化器癌発生学会総会については、吉田次々期会長が欠席のため、島田理事長より、2021年に開催され、第10回国際消化器癌発生会議と合同開催となることが報告された。

第14号議案　その他

特になし。

以上

第32回日本消化器癌発生学会総会・第10回国際消化器癌発生会議開催日程について

第32回日本消化器癌発生学会総会（The 32th Annual Meeting of Japanese Asskciation for Cancer Detection and Diagnosis）・第10回国際消化器癌発生会議（The 10th International Conference of the International Society of gastroenterological Carcinogenesis）は、吉田和弘大会長のもと下記の要項で開催される予定です。

大会長：吉田和弘（岐阜大学大学院医学系研究科　腫瘍制御学講座　腫瘍外科学分野　教授）
日　時：2021年11月26日（金）、27日（土）
　　25日（木）は理事会、評議員会、委員会等
場　所：都ホテル岐阜長良川、長良川国際会議場

編集後記

東京大学大学院医学系研究科 消化管外科、東京大学医学部付属病院 胃食道外科　**愛甲 丞**

COVID-19の感染拡大により、その対策に大変ご苦労なさっている先生方も多いことと存じます。また、本学会の会員の皆様の中にも健康被害を受けられた方がおられるのではないかと案じております。感染の一日も早い収束を祈る次第です。

さて、本年の第31回日本消化器癌発生学会総会は、大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科教授 大平雅一先生が会長を務められます。感染拡大の影響で、残念ながら期間を短縮してのWeb開催となりました。これまで現地開催に向けて準備をされてきた諸先生方のご苦労を思うと残念でなりません。本学会の最大の特徴である多領域の先生方との熱い議論をやりづらくなるというデメリットはありますが、Web配信にもいくつかのメリットがあります。今回「癌組織の細胞社会を解き明かす」というテーマで企画されたセッションは臓器横断的で先駆的な演題も多く、自分のペースでじっくり見たいという場合にオンデマンドでの配信は最適です。なにより、日常の業務に追われる若手医師にとっては、参加しやすくなるというメリットがあります。Webの画面を通してではありますが、同年代の若い外科医が基礎系や内科の先生方に負けず劣らずの研究発表を行う姿を見て、大きな刺激を受けるという点では、これまでと変わらぬ本学会の魅力の一つが伝わるものと信じております。

私個人的には、「古き良き学会」の学会終了後も続く先生方との交流を楽しみにしておりましたので、「withコロナの新しい学会」でも、将来的にはそれが叶うことを願っています。会員の皆様方におかれましては、是非ご所属の施設の内科、外科、基礎系の若い先生方にもお声掛けの上、学会総会に参加いただければと存じます。画面越しではありますが、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

発行　一般社団法人日本消化器癌発生学会事務局
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-15 6F
株式会社クバプロ内
TEL：03-3238-1689　FAX：03-3238-1837

発行日　2020年10月27日
発行者　一般社団法人日本消化器癌発生学会
編　集　総務委員会